



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月10日

上場会社名 鉦研工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6297 URL <https://www.koken-boring.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木山 隆二郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員財務本部長 (氏名) 和泉 裕介 (TEL) 03 (6907) 7888  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	5,255	△1.8	115	△64.4	39	△87.6	91	△68.4
2022年3月期第3四半期	5,351	△3.0	323	38.5	317	35.5	289	△65.9

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 90百万円(△69.4%) 2022年3月期第3四半期 296百万円(△65.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	10.86	—
2022年3月期第3四半期	33.93	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	13,195	4,576	34.7
2022年3月期	11,629	4,591	39.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 4,576百万円 2022年3月期 4,562百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,300	13.1	300	△6.7	210	△32.3	200	△31.8	23.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 1社(社名) 株式会社クリステンセン・マイカイ 、除外 1社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期3Q	8,970,111株	2022年3月期	8,970,111株
2023年3月期3Q	529,195株	2022年3月期	553,576株
2023年3月期3Q	8,431,164株	2022年3月期3Q	8,526,560株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(連結の範囲の重要な変更)	11
(追加情報)	11
(セグメント情報等)	12
(企業結合等関係)	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の行動制限の緩和等により、経済社会活動の正常化が進んだことで、緩やかな景気の持ち直しの動きが見られましたが、急速な円安の進行に伴う輸入物価の上昇や、ウクライナ情勢等を背景とした原材料価格の高騰が依然として継続しており、さらに、金融引き締め等による欧米経済の減速が懸念されるなど、今後の先行きに対する警戒感が高まっております。

当社グループを取り巻く環境につきましては、国内市場は今後も都市の再開発、全国規模の防災・減災対策、インフラ老朽化対策、リニア中央新幹線建設など、社会資本整備が不可欠で、建設投資は今後も底堅く推移していくことが見込まれております。当社グループにおきましては、新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢等による世界的なサプライチェーンへの影響により仕入部品調達の長期化影響が継続しているため、ボーリング機器関連の主要機械の受注、生産、出荷体制への影響を引き続き注視して参ります。工事施工関連においては、建設業界における「働き方改革」などによる工程の変更、大型プロジェクト案件から、脱炭素・自然エネルギー関連事業への移行期にあります。

このような状況のもと、当社グループでは引き続き中期経営計画「STEP UP鈦研ACTIONS 2025」（2021年度～2025年度）に基づいて、持続的売上拡大と収益確保に努めて参ります。

当第3四半期連結累計期間の受注高は、ボーリング機器関連では第3四半期に入って国内外の経済社会活動の正常化により受注が回復傾向にあります。また、工事施工関連においても、トンネル工事や地下水事業の受注が回復し、前年同四半期を上回りました。今後は、トンネル工事の受注減少を見込み、当社独自の技術を生かした事業の受注を目指して参ります。売上高につきましても、第1四半期の工場引越の影響による出荷停止分を挽回し、ほぼ、前年同四半期と同水準となっております。

以上の結果、連結受注高は前年同四半期12.5%増の5,815百万円、連結売上高は同1.8%減の5,255百万円となりました。利益面におきましては、原価率が悪化し、更に販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は115百万円（前年同四半期比64.4%減）、経常利益は39百万円（同87.6%減）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は91百万円（同68.4%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間(A) 自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	前第3四半期 連結累計期間(B) 自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	前年同期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	5,815	5,168	646	12.5%
売上高	5,255	5,351	△96	△1.8%
営業利益	115	323	△208	△64.4%
経常利益	39	317	△277	△87.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	91	289	△197	△68.4%

(百万円未満は切り捨てて表示しております。以下、同じ。)

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① ボーリング機器関連

第3四半期に入って、国内外の経済活動が進む中、受注高は増加いたしました。特に、中国市場における大型受注もあり、受注高全体では前年同四半期を上回る3,155百万円（前年同四半期比4.3%増）となりました。売上高につきましては、第1四半期の工場引越の影響による出荷停止分をほぼ挽回できており、前年同四半期をやや下回る2,819百万円の（前年同四半期比1.3%減）の売上高を計上いたしました。利益面では引き続き、個別原価の管理を強化しておりますが、原材料の高騰を販売価格に反映することにやや遅れがあり、原価率は悪化しました。更に、販売費及び一般管理費の負担も増加したことにより、同セグメントはセグメント損失50百万円（前年同四半期はセグメント利益57百万円）を計上いたしました。

（単位：百万円）

	当第3四半期 連結累計期間(A) 自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	前第3四半期 連結累計期間(B) 自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	前年同期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	3,155	3,025	130	4.3%
売上高	2,819	2,856	△36	△1.3%
セグメント利益又は損失(△)	△50	57	△107	—

② 工事施工関連

受注高はトンネル調査工事で大型工事の着工が開始されたことや大型地下水工事の受注により、前年同四半期と比べると516百万円増加し、2,659百万円（前年同四半期比24.1%増）となりました。売上高につきましては、トンネル調査工事、地下水工事は伸びたものの、大型工事などが全体的な進捗の低迷により、売上高全体では前年同四半期を下回る2,436百万円（前年同四半期比2.4%減）となりました。利益につきましては、地下水工事、温泉工事の工期延長により利益貢献とならず、セグメント利益163百万円（前年同四半期比38.0%減）を計上いたしました。

（単位：百万円）

	当第3四半期 連結累計期間(A) 自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	前第3四半期 連結累計期間(B) 自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	前年同期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	2,659	2,143	516	24.1%
売上高	2,436	2,495	△59	△2.4%
セグメント利益	163	264	△100	△38.0%

(2) 財政状態に関する説明

①資産の部

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比較して1,566百万円増加し、13,195百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金が127百万円、売上債権（受取手形、売掛金及び契約資産、電子記録債権）が133百万円（うち子会社取得に伴う増加396百万円、その他の減少263百万円）、棚卸資産（商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品）が934百万円（うち子会社取得に伴う増加229百万円、その他の増加705百万円）それぞれ増加したことなどから、前連結会計年度末と比較して1,196百万円増加し、7,565百万円となりました。

有形及び無形固定資産は、155百万円の減価償却を実施しました。建物、機械及び装置、工具器具備品などで287百万円の設備投資を行いました。土地を一部売却したことにより有形固定資産は113百万円（うち子会社取得に伴う増加335百万円、その他の減少448百万円）減少し、4,953百万円となりました。無形固定資産は、株式会社クリステンセン・マイカイの株式取得により、のれんが発生し245百万円増加したことなどから297百万円となりました。投資その他の資産は、投資有価証券が67百万円（うち子会社取得に伴う増加67百万円、その他の増加0百万円）、その他に含まれる保険積立金が171百万円（うち子会社取得に伴う増加154百万円、その他の増加16百万円）それぞれ増加したことなどにより379百万円となりました。以上の結果、固定資産合計では前連結会計年度末と比較して369百万円増加し、5,630百万円となりました。

②負債の部

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末と比較して1,580百万円増加し、8,619百万円となりました。

流動負債は、短期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が997百万円（うち子会社取得に伴う増加337百万円、その他の増加660百万円）増加しましたが、未払費用が1,413百万円（うち子会社取得に伴う増加30百万円、その他の減少1,444百万円）、仕入債務（支払手形及び買掛金、電子記録債務、工事未払金）が149百万円（うち子会社取得に伴う増加238百万円、その他の減少388百万円）、賞与引当金が82百万円（うち子会社取得に伴う増加3百万円、その他の減少86百万円）それぞれ減少したことなどから、前連結会計年度末と比較して494百万円減少し、3,992百万円となりました。

固定負債は、長期借入金が1,926百万円（うち子会社取得に伴う増加428百万円、その他の増加1,497百万円）、退職給付に係る負債が107百万円（うち子会社取得に伴う増加66百万円、その他の増加41百万円）それぞれ増加したことなどから、前連結会計年度末と比較して2,075百万円増加し、4,626百万円となりました。

③純資産の部

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益91百万円を計上しましたが、配当金の支払いにより84百万円、非支配株主持分が28百万円それぞれ減少したことなどにより前連結会計年度末と比較して14百万円減少し、4,576百万円となりました。なお、自己資本比率は、前連結会計年度末と比較して4.5ポイント減少し34.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月10日に公表いたしました業績予想を修正しております。なお詳細につきましては、本日(2023年2月10日)公表の「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

(連結業績予想)

売上高	8,300百万円 (前期比 13.1%)
営業利益	300百万円 (前期比△6.7%)
経常利益	210百万円 (前期比△32.3%)
親会社株主に帰属する当期純利益	200百万円 (前期比△31.8%)

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

2022年11月30日付で、株式会社クリステンセン・マイカイの自己株式を除く発行済株式の全てを取得し、同社を連結の範囲に含めております。なお、当第3四半期連結累計期間は、貸借対照表のみを連結しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,233,361	1,360,988
受取手形、売掛金及び契約資産	2,244,261	2,077,614
電子記録債権	218,457	518,275
商品及び製品	1,200,233	1,672,766
原材料及び貯蔵品	379,021	500,156
仕掛品	839,227	1,180,445
その他	254,744	255,481
貸倒引当金	△300	-
流動資産合計	6,369,006	7,565,727
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,277,902	2,508,618
機械装置及び運搬具（純額）	168,296	335,854
土地	2,483,823	1,986,896
その他（純額）	136,941	121,969
有形固定資産合計	5,066,964	4,953,339
無形固定資産		
のれん	-	247,778
その他	51,763	49,831
無形固定資産合計	51,763	297,609
投資その他の資産		
投資有価証券	283	67,860
繰延税金資産	37,270	9,733
その他	105,387	302,830
貸倒引当金	△1,000	△1,205
投資その他の資産合計	141,941	379,219
固定資産合計	5,260,668	5,630,168
資産合計	11,629,675	13,195,896

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	576,033	692,364
電子記録債務	809,259	551,980
工事未払金	134,535	125,525
未払費用	1,658,371	244,528
契約負債	47,255	70,093
短期借入金	740,000	1,550,000
1年内返済予定の長期借入金	227,551	415,275
未払法人税等	20,957	79,390
賞与引当金	174,324	91,654
工事損失引当金	4,400	-
受注損失引当金	390	13,000
その他	94,190	158,542
流動負債合計	4,487,269	3,992,355
固定負債		
長期借入金	1,868,939	3,795,142
役員退職慰労引当金	20,364	50,866
退職給付に係る負債	575,473	682,795
資産除去債務	11,000	11,000
繰延税金負債	-	5,409
再評価に係る繰延税金負債	15,230	15,230
その他	60,107	66,433
固定負債合計	2,551,114	4,626,877
負債合計	7,038,384	8,619,232
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,165,415	1,165,415
資本剰余金	5	-
利益剰余金	3,849,890	3,849,819
自己株式	△315,109	△301,230
株主資本合計	4,700,201	4,714,004
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△14	36
土地再評価差額金	△124,007	△124,007
退職給付に係る調整累計額	△13,618	△13,370
その他の包括利益累計額合計	△137,640	△137,340
非支配株主持分	28,729	-
純資産合計	4,591,290	4,576,663
負債純資産合計	11,629,675	13,195,896

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	5,351,795	5,255,737
売上原価	3,736,293	3,846,581
売上総利益	1,615,502	1,409,155
販売費及び一般管理費	1,292,299	1,294,140
営業利益	323,203	115,015
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	122	24
スクラップ売却益	10,174	2,899
その他	7,630	9,457
営業外収益合計	17,934	12,387
営業外費用		
支払利息	22,278	47,866
支払手数料	1,009	39,054
その他	444	1,004
営業外費用合計	23,732	87,924
経常利益	317,404	39,478
特別利益		
固定資産売却益	82	114,025
環境対策引当金戻入額	365	-
特別利益合計	447	114,025
特別損失		
固定資産除却損	589	9
特別損失合計	589	9
税金等調整前四半期純利益	317,263	153,494
法人税、住民税及び事業税	20,537	28,334
法人税等調整額	4,769	34,753
法人税等合計	25,307	63,088
四半期純利益	291,955	90,406
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	2,676	△1,119
親会社株主に帰属する四半期純利益	289,278	91,525

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	291,955	90,406
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	51
退職給付に係る調整額	4,762	247
その他の包括利益合計	4,763	299
四半期包括利益	296,719	90,705
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	294,042	91,825
非支配株主に係る四半期包括利益	2,676	△1,119

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年6月23日開催の取締役会において譲渡制限付株式報酬としての自己株式の交付を決議し、2022年7月22日付けで24,382株処分いたしました。この結果、自己株式は当第3四半期連結累計期間において13,878千円減少し、当第3四半期連結会計期間末において301,230千円となっております。

(連結の範囲の重要な変更)

当第3四半期連結会計期間より、株式会社クリステンセン・マイカイの自己株式を除く発行済株式の全てを取得したことにより同社を連結の範囲に含めております。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の拡大及びウクライナをめぐる現下の国際情勢に伴う会計上の見積りについて重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	ボーリング 機器関連	工事施工関連			
売上高					
外部顧客への売上高	2,856,097	2,495,697	5,351,795	—	5,351,795
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,532	—	2,532	△2,532	—
計	2,858,629	2,495,697	5,354,327	△2,532	5,351,795
セグメント利益	57,589	264,345	321,935	1,267	323,203

(注) 1. セグメント利益の調整額1,267千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	ボーリング 機器関連	工事施工関連			
売上高					
外部顧客への売上高	2,819,554	2,436,183	5,255,737	—	5,255,737
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,176	—	4,176	△4,176	—
計	2,823,731	2,436,183	5,259,914	△4,176	5,255,737
セグメント利益又は損失 (△)	△50,389	163,788	113,399	1,616	115,015

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額1,616千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

当第3四半期連結会計期間において、株式会社クリステンセン・マイカイの自己株式を除く発行済株式の全てを取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「ボーリング機器関連」のセグメント資産が1,736,493千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ボーリング機器関連」セグメントにおいて、株式会社クリステンセン・マイカイの株式取得により、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては247,778千円です。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

当社は2022年10月24日開催の取締役会において、株式会社クリステンセン・マイカイの自己株式を除く発行済株式の全てを取得（完全子会社化）することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結、2022年11月30日に当該株式を取得いたしました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業内容

被取得企業の名称：株式会社クリステンセン・マイカイ

事業の内容：ダイヤモンドビット製造・販売、コアバーレル製造・販売等

② 企業結合を行った主な理由

株式会社クリステンセン・マイカイは創業以来、当社と同様ボーリング事業一筋に邁進してきた会社で、事業の内容としては、ダイヤモンドビット事業、コアバーレル事業、水中ポンプ事業、ウェルサービス事業を行っております。

当社の中期経営計画「STEP UP 鉦研 ACTIONS 2025」にある、戦略的パートナーとの協働による企業価値向上を目指して、資本提携を通じシナジーを発揮し、互いの得意とする分野を活かしながら共に発展していくことを目的としております。

③ 企業結合日

2022年11月30日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

企業結合後の名称変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

株式会社クリステンセン・マイカイについては決算日が11月30日であり、当第3四半期の連結決算日との差異が3か月以内のため、当該子会社の決算を基礎として連結決算を行っております。そのため、当第3四半期連結累計期間においては貸借対照表のみ連結しております。

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

相手先の意向を踏まえ、開示は差し控えさせていただきます。

なお、第三者機関に委託し、価格は適正に算出しております。

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれん金額

247,778千円

② 発生原因

被取得企業の取得原価が企業結合時の被取得企業の時価純資産額を上回ったため、その差額をのれんとして処理しております。

③ 償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却